

2013年 3月21日

みらい 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第46号

みんなちがって みんないい



ふた昔ほど前。西宮のとある小学校。卒業を間近に控えた6年生の教室にて。

子どもたちにあらん限りの愛情を注ぎ、一人一人の個性をたたえながら「みんなちがって みんないい」と伝え続けてきた担任の先生が、クラスの子どもたちに向かって言った。

「これから、卒業試験を行う。この試験に受からなければ、おまえたちは卒業できない。いいか。…今から、『いい人間』の順に並べ。」

耳を疑う子どもたち。どよめく教室。なぜ、この先生の口からこんな言葉が出るのかさっぱり分からない。

「ほら、立って並べ。クラスの中で一番『いい人間』は誰だ？おい、おまえは、このクラスの中でどれくらい『いい人間』なんだ？」

半泣きになりながら抵抗する子どもたち。

「先生、なんでやねん。先生、ずっと俺たちに言ってきたやんか。みんなそれぞれ個性があって、いいところも悪いところもそれぞれあって、それが人間で、だから助け合っていくんや、って。」

「そんな順番に並べるわけないやんか。」

「いやや、先生。そんなことでけへんし、したくないわ！」

「うるさい！つべこべ言わずに並べ！！これは卒業試験や！でけへんかったら、おまえら、卒業させへんぞ！！」

先生の勢いにおされながら、子どもたちは顔を見合わせ、そして決意する。

「分かった、先生。やってみるから、先生、教室の外に出とってや。」



多少フィクションも含まれるかと思いますが、20年ほど前に実際にあった話です。

30分ほどかけて答えを出した子どもたちは、その後担任の先生を教室に招き入れ、見事に『卒業試験』に合格しました。「正解」があるのかどうか知りませんが、そのとき子どもたちが力を合わせて見つけ出した答えに、担任の先生は心から感心し、感動したそうです。

さあ、今、同じ問題を出されたら、子どもたちは、そして私たちは、どういふ答えを出すのでしょうか？教えてもらうのではなく、自分たちで納得できる答えを見つける…きっとそれが一番大切なのでしょうね。(聳城)



平成24年度を振り返って

何かに追われるように過ぎた一年間でした。でも、たくさんの出会いや学びがありました。自分にできることは限られていますが、皆さんに教えてもらったことをしっかり生かせるよう、いろいろな人と繋がって、これからも進んでいきたいと思えます。一年間、ありがとうございました。(聳城)

専部として、支援を必要とする人に何か手助けができればと思い臨みましたが、全く思うように動けず反省ばかりです。しかし、小中学校への巡回相談での経験はとてもためになりました。今後活かしていきたいと考えています。(高橋)

学年支援部員という形で一年間お世話になりました。この一年、私自身も生徒や保護者の方々、先生たちからたくさんの教えを受け、成長できたと思えます。来年度ももっと成長するぞー！！ありがとうございました。(大村)

17期生も感動の卒業式を終えることができました。そして18期生も無事最終学年を迎えることができそうです。保護者の皆様ご協力ありがとうございました。来年度も今年度の反省を生かして頑張りたいと思っております。よろしくお祈りします。(三輪)



春夏秋冬、ひとめぐりして、また春がやって来ます。みなさんの四季はそれぞれ、どのようにめぐったことでしょうか。私にもみなさんと同じように、出会いと別れがありました。どんな関わりにも、心を深める気づきがあると再確認しつつ、次の春にも期待する日々です。(野村)